

「もう7ヶ月か。身体具合はどうだ」

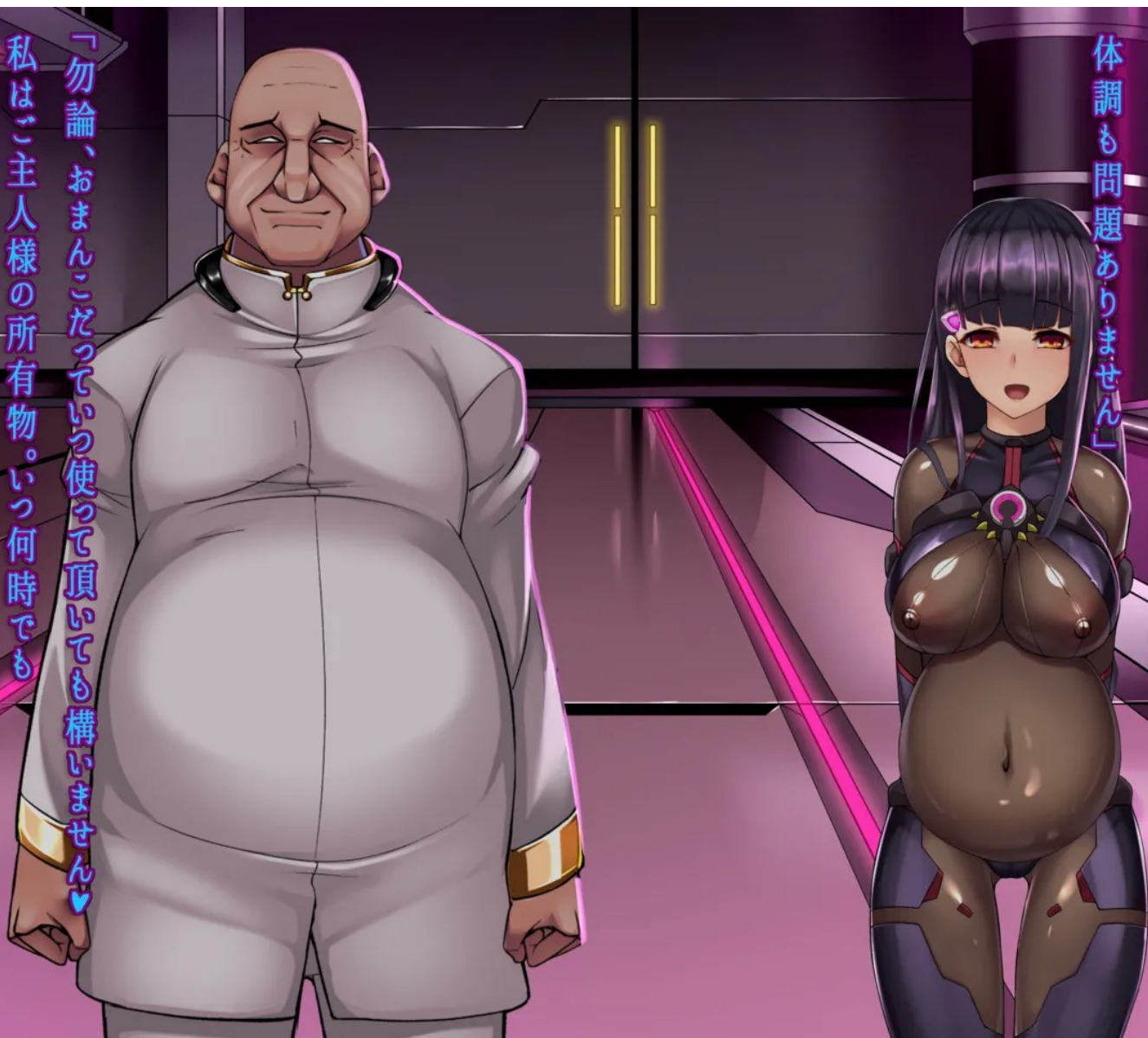


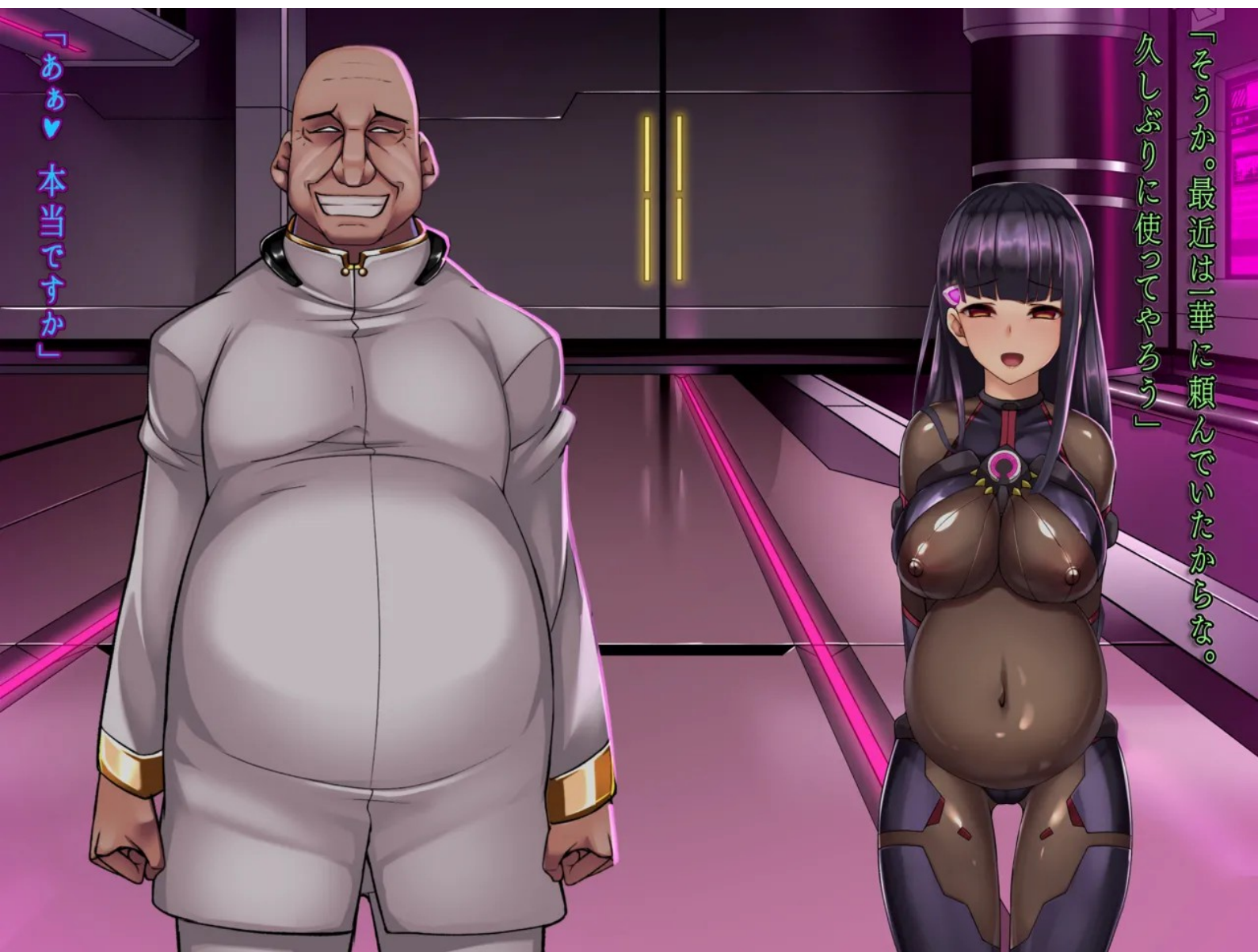
「見て下さいご主人様、こんなに大きくなりました」



「お心使いありがとうございます。大丈夫です。
ご主人様に改造して頂いていますから、
体調も問題ありません」

「勿論、おまんこだっていつ使って頂いても構いません♡
私はご主人様の所有物。いつ何時でも
雌奴隷としての責務は忘れていません」





「ああ♡ 本当ですか」

「そうか。最近は一華に頼んでいたからな。
久しぶりに使ってやろう」

「嬉しい♡ 久しぶりのおちんぼ様♡ やっぱりおちん
ぼ様じゃないと満足できないんですっ♡」



「毎晩自慰に耽っていたのは知っている。

「華とやっているのをモニターで覗き見していただろう？」

「ごめんなさい♡ だって、「華ちゃんぽっかかりご主人様を
独り占めしてズルいんですもの」

「お腹の子と同じぐらい、おちんぽ様が愛おしくてえ♡♡」



「悪い妊婦だ。生まれてくる娘にどう説明するんだ？」



「私の娘ですから、きつとすぐご主人様のおちんぼの素晴らしさがわかるはずです♡ あっ、おちんぼ様膨らんでる♡
ザーメンください♡ 卑しい淫乱なママに精子注いでえ♡♡」

「しようなない母親だ。いいだろう受け取れ！」

ゴホッ

「あ、いい♡ ああ、出てます♡
お腹の赤ちゃんにもいい♡♡」



「満足したか。安心しろ。」

子を産めばまたいくらでも犯してやる」

ドロォー

はー♡

はー♡

「ああ、ありがとうございます……♡」

